

風で舞い飛ぶ実やたね

●タンポポの実

タンポポの花のつくりを見直してみよう (p18)。がくに当たる部分が毛になっているが、これがのびてパラシュート状になった。毛を冠毛(かんもう)という。冠毛の柄の下についているのは実で、中に1個のたねがある。これも実とたねの区別がしにくい。タンポポの花は小さな花(小花)が集まった頭花だが、1個の小花からそれぞれ一つの実ができる。(p146)



冠毛をつけたセイヨウタンポポの実。

●ガガイモのたね

秋も深まった晴れた日、熟したガガイモの実が割れ白い毛をもったたねが舞い散る。(p62)



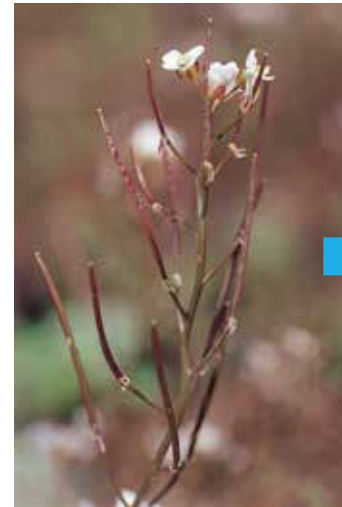
▲舟のような形をしたのが実で、長い白い毛をつけたのがたねだ。

◀ガガイモの若い実。

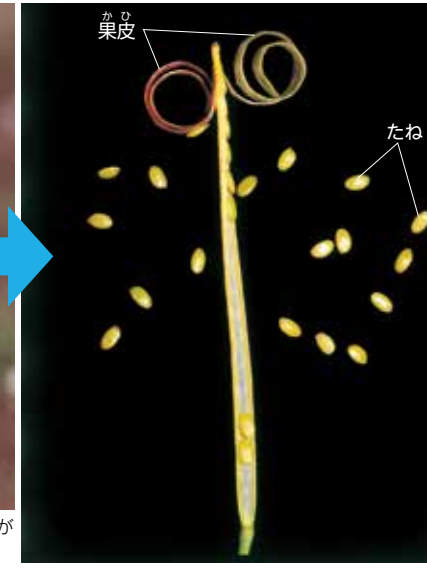
自力でたねをはじき飛ばす

実やたね、その散り方

実やたねにしかけがあって、たねをはじき飛ばすものがある。ハウセンカがよく知られているが雑草にもいろいろある。



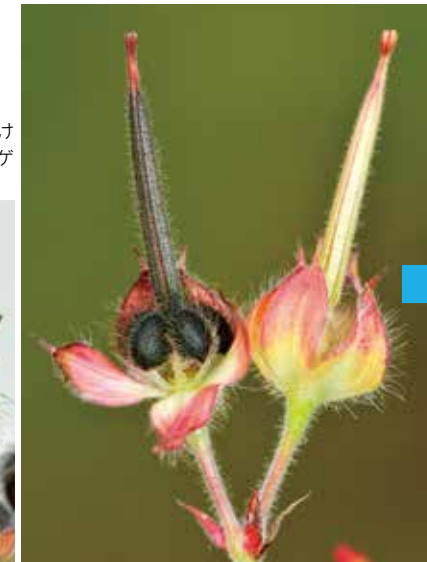
▲タネツケバナ。細長い実の中にたねがある。(p93、ミチタネツケバナも同じ)



◀実が熟すと果皮(2個)が勢いよく巻き上がり、その勢いでたねを飛ばす。

▼実が熟すと果皮が5個に裂けて巻き上がり、その勢いでたねを飛ばす。

アメリカフウロ。果皮の付け根にたねがある。(野草のゲンノショウコも同じタイプ)



▶オッチカカタバミ。実が熟すと果皮の合わせ目にすき間ができ、そこからたねが出る。(p110、カタバミも同じ。)



たね。たまたま飛ばずに残った

反転した半透明な皮。たねといっしょに飛ぶことが多い

はじける前のたね。半透明な皮をかぶっている

◀たねは半透明な皮(仮種皮と思われる)に包まれている。この皮が刺激によって急に反転し、その勢いでたねが飛ばされる。